

別添 2

地域保育コース<共通科目>シラバス

【研修の構造：地域保育の基礎を理解するための科目】

<科目>

① 乳幼児の生活と遊び（講義・60分）

<目的>

1. 発達・成長過程に応じた子どもの生活への援助方法について理解する。
2. 発達にふさわしい子どもの遊びとその環境のあり方について理解する。
3. 子ども同士の関わりあいが、発達を促すことについて理解する。
4. 子どもの一日の生活の流れの中での保育者（※）の役割について理解する。

（※）「共通科目」において、保育者とは、家庭的保育補助者、保育従事者及び提供会員をいう。

<内容>

1. 子どもの発達と生活
子どもが安心して過ごせるよう、生活の場の移行に伴う子どもの家庭生活との連続性や発達段階に応じた保育に対する配慮について理解する。
(1) 生活や発達の連続性に考慮した保育
2. 子どもの遊びと環境
子どもは遊びを通して発達することを学び、遊びとその環境の重要性について理解する。
(1) 遊びによる総合的な保育
(2) 遊びを豊かにする環境のあり方
3. 人との関係と保育のねらい・内容
それぞれの発達段階において、子どもが経験しておきたいことを学び、発達段階に応じて行われる具体的な保育内容を理解する。
(1) 発達段階に応じた保育のねらいと保育内容
4. 子どもの一日の生活の流れと役割
それぞれの発達段階に応じた一日の過ごし方と子どもの発達段階に応じて見られる子どもの具体的な姿、保育者の役割を理解する。
(1) 発達段階に応じた一日の流れと子どもの姿

<研修に当たっての考え方>

実践する保育の内容に対する具体的なイメージを持ち、対象となる乳幼児の生活と遊びの重要性を理解するため、子どもの発達段階に応じた生活への援助方法、子どもが楽しく過ごせるような関わり方と環境の構成、一日の流れ、生活や遊びの中での保育者の役割を学ぶものとする。

地域保育コース<共通科目>シラバス

【研修の構造：地域保育の基礎を理解するための科目】

<科目>

② 乳幼児の発達と心理（講義・90分）

<目的>

1. 0歳から3歳くらいまでの乳幼児期の発達のポイントを学び、発達に応じた遊びやその安全性について理解する。
2. 子どもの発達を支える保育者の役割について理解する。

<内容>

1. 発達とは
「保育所保育指針」に記載されている子どもの発達についてのとらえ方を理解する。
2. 発達時期の区分と特徴
「保育所保育指針」に記載されている発達時期の区分と特徴について理解する。
3. ことばとコミュニケーション
発達段階に応じたコミュニケーションの方法（泣き、喃語、手さし・指さし、二語文等）について理解する。
4. 自分と他者
発達段階に応じて乳幼児が行う行動の意味について理解する。（アタッチメント（愛着）、指しゃぶり、後追いと人見知り、友だちとのかかわり、保護者から離れて遊ぶ等）
5. 手のはたらきと探索
発達段階に応じた手の使い方や動き、手を使った遊びについて理解する。
 - (1) 手の使い方と動き
 - (2) 手先の器用さ
 - (3) さかんになる探索活動 ～実体験から学ぶ～
 - (4) 発達に伴う遊びの変化
6. 移動する力
自力での移動を行うことができる時期のかかわり方のポイント、事故について注意すべき事項について理解する。
 - (1) 移動運動
7. こころと行動の発達を支える保育者の役割
乳幼児期の遊びと保育者の役割について理解する。
 - (1) 乳幼児期の発達を支える保育者の役割
 - (2) 乳児期の遊びの重要性
 - (3) 日常生活の経験と遊びへのつながり

<研修に当たっての考え方>

発達段階に応じて、子どもと適切に関わることや応答的に関わることを理解するため、発達段階に応じた子どもの特徴（コミュニケーションの仕方、手の動き、移動する力、保育者の役割等）を学ぶものとする。

地域保育コース<共通科目>シラバス

【研修の構造：地域保育の基礎を理解するための科目】

<科目>

③ 乳幼児の食事と栄養（講義・60分）

<目的>

1. 離乳の進め方に関する最近の動向について理解する。
2. 幼児期の昼食作りに役立つ栄養バランスのポイント、食品衛生の基礎知識について理解する。
3. 食物アレルギーについて理解する。
4. 保育者がおさえる食育のポイントについて理解する。

<内容>

1. 離乳の進め方に関する最近の動向
「授乳・離乳の支援ガイド」のねらいと、「授乳・離乳の支援ガイド」を活用した育児支援について理解する。
 - (1) 「授乳・離乳の支援ガイド」について
 - (2) 「授乳・離乳の支援ガイド」を活用した育児支援
2. 栄養バランスを考えた幼児期の食事作りのポイント
幼児期の食事作りの配慮事項（栄養、食品構成、衛生管理等）について理解する。
 - (1) 幼児期の栄養・食生活の特性
 - (2) 食事摂取基準と食品構成
 - (3) 幼児期の食事作りで配慮すべき点
 - (4) 幼児期の献立の立て方
 - (5) 衛生管理
3. 食物アレルギー
食物アレルギーに関する基本的考え方や配慮事項について理解する。
4. 保育者が押さえる食育のポイント
発達段階に応じて「食べる意欲」を支援する食育のポイントについて理解する。
 - (1) 食育の目標と内容
 - (2) 手づかみ食について
 - (3) 乳幼児期の食育のめざすもの
 - (4) 食育の実例

<研修に当たっての考え方>

乳幼児の食事について、提供する際の留意事項や保護者に対する助言のポイントについて理解するため、最近の離乳の進め方、幼児期の食事作りのポイント、食物アレルギー、食育に関するポイントを学ぶものとする。

地域保育コース<共通科目>シラバス

【研修の構造：地域保育の基礎を理解するための科目】

<科目>

④ 小児保健 I (講義・60分)

<目的>

1. 保育を行う上で必要となる健康管理のポイントや疾病の予防と感染防止への対応、保育中の発症への対応などの基礎知識について理解する。
2. 現場に生かせる、より具体的な対応について理解する。

<内容>

1. 乳幼児の健康観察のポイント
乳幼児の健康観察における留意事項について理解する。
 - (1) バイタルサインの観察
 - (2) 子どもの健康状態の変化の特徴
 - (3) 日々の観察
※乳幼児突然死症候群の予防、留意事項について説明
2. 発育と発達について
乳幼児の発育・発達や健康状態の把握、健康診断及び母子健康手帳の記載内容の活用。
 - (1) 入所前における子どもの健康状態の把握
 - (2) 嘱託医や関係機関との連携
3. 衛生管理・消毒について
「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準」に定める衛生管理等、実際に行う衛生管理の具体的な方法について理解する。
 - (1) 保育室の環境整備 (室温、換気、採光等)
 - (2) 施設整備の衛生管理
 - (3) 手指の衛生
 - (4) その他の衛生管理
4. 薬の預かりについて
与薬に当たっての配慮事項について理解する。
 - (1) 与薬に際しての注意点

<研修に当たっての考え方>

乳幼児の疾病の予防及び感染の防止への対応について理解するため、乳幼児の健康観察のポイント、健康診断、衛生管理、薬の管理等、より具体的な対応について学ぶものとする。

地域保育コース<共通科目>シラバス

【研修の構造：地域保育の基礎を理解するための科目】

<科目>

⑤ 小児保健Ⅱ（講義・60分）

<目的>

1. 子どもに多い症状・病気を学び、その対応について理解する。
2. 小児に多い事故を学び、その予防と対応について理解する。
3. 異物除去法、心肺蘇生法を学び、緊急時の対応について理解する。

<内容>

1. 子どもに多い症例とその対応
子どもに多い症状（発熱、けいれん、腹痛・嘔吐・下痢、脱水）とこの対応方法について理解する。
2. 子どもに多い病気（SIDS等を含む）とその対応
子どもに多い病気（具体的な感染症とその特徴）やその対応、アレルギー（特徴と対処方法）について理解する。
(1) 主な感染症とその予防
 - 1) 感染の基本
 - 2) 流行性疾患（予防接種のあるもの）
 - 3) 予防接種のない感染症
 - 4) 登園（保育）許可について
 - 5) 感染予防
(2) アレルギー（アナフィラキシー、食物アレルギー、気管支喘息）について

※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」「保育所における感染症対策ガイドライン」を周知する。
3. 事故予防と対応
子どもに多い事故（転倒・転落、誤飲・誤嚥、やけど、溺水等）、事故予防、救急処置の方法について理解する。
(1) 子どもに多い事故
(2) 事故予防と対応
(3) 救急処理（異物除去法、一次救命処置）

<研修に当たっての考え方>

子どもに多い病気の予防とその対応について理解するため、乳幼児に多い感染症・アレルギーの症状や事故とその対応方法について学ぶものとする。

地域保育コース<共通科目>シラバス

【研修の構造：地域保育の基礎を理解するための科目】

<科目>

⑥ 心肺蘇生法（実技・120分）

<目的>

1. 乳幼児を対象とした救急救命が行えるように、その技術を身につける。

<内容>

1. 心肺蘇生法、AED、異物除去法等

乳幼児に対応した心肺蘇生法の実技研修となるよう、講習実施機関等と事前に講習内容について調整するとともに、参加人数が多すぎるなどにより、見学だけの科目にならないよう配慮が必要。

<研修に当たっての考え方>

乳幼児を対象とした救急救命を行うことができるようその方法を習得するため、乳児、幼児人形を使用した救命救急の実技講習となるようにするとともに、必ず参加者が実技訓練をできるように、参加者数に対する人形、AEDの数や講師数に配慮することにより、具体的な心肺蘇生法、異物除去法等の救急救命の技術について学ぶものとする。

地域保育コース<共通科目>シラバス

【研修の構造：地域保育の実際を理解するための科目】

<科目>

⑦ 地域保育の環境整備（講義・60分）

<目的>

1. 保育環境の整備にあたり、基本的な考え方と配慮事項について理解する。
2. 保育を行うために作られた場所ではないところを保育の場として利用する上での工夫や配慮について理解する。
3. 保育に必要な設備・備品とその配置について、具体的事例およびチェックポイントを示し、自己点検を行えるようにする。

<内容>

1. 保育環境を整える前に
「家庭的保育等に関する設備及び運営に関する基準」（平成26年厚生労働省令第61号）にある基準や保育環境に関する基本的な考え方を理解する。
(1) 「家庭的保育等に関する設備及び運営に関する基準」等の規定について
(2) 保育に必要な環境の構成要素
(3) 保育環境に関する留意点
(4) 保育者の居宅で保育を行う場合
2. 保育に必要な環境とは
子どもを保育するにあたり、安全性が保障されており、子どもにとって1日を居心地の良く過ごせるために必要な環境について理解する。
(1) 安全に、安心して生活できること
1) 子どもの発達と事故
2) 事故を未然に防ぐための環境整備
①進入防止、②転倒などによる事故防止、③ドアへの挟まれ防止、④乗り越え（転落）防止、
⑤物の取り出しによる事故防止、危険物取り出し防止、⑥落下や家具の転倒防止、⑦誤飲防止、⑧溺水防止
3) 居心地のよい環境づくり
(2) 日常的なケアを行う
(3) 子どもの豊かな遊びを保障する
(4) 効率的な空間の利用
(5) 清潔を保つ — 衛生管理
(6) 保育環境を整える際に検討すべきこと
3. 環境のチェックポイント
具体的に必要となる設備や備品に関するチェックポイントについて理解する。

<研修に当たっての考え方>

子どもにとって居心地のよい保育環境、保育者の居宅で行う家庭的保育における保育環境整備における留意点について理解するため、保育環境整備に当たっての基本的考え方、子どもが安全に安心して過ごすことができるために必要となる環境、このために必要となる設備や備品とこの配置について具体的な事例及びチェックポイントについて学ぶものとする。

地域保育コース<共通科目>シラバス

【研修の構造：地域保育の実際を理解するための科目】

<科目>

⑧ 安全の確保とリスクマネジメント（講義・60分）

<目的>

1. 保育環境上起こりうる危険について学び、事故を未然に防ぐための予防策や安全確保の留意点について理解する。
2. 万一事故が起こった場合の対応や報告について理解する。

<内容>

1. 子どもの事故
発達段階に応じて子どもに起こりやすい事故の内容が異なっていることについて理解する。
2. 子どもの事故の予防 保育上の留意点
子どもの事故について、具体的な点検事項を確認し、事故防止の方法について理解する。
 - (1) 毎日の点検
 - 1) 健康観察（視診） 2) 子どもの受け渡し 3) 保育室内での事故防止 4) 散歩 5) 戸外での活動
 - 6) 不審者対応
 - (2) 定期的な点検
 - 1) 保育室内での事故防止 2) 散歩 3) 火事・地震 4) いざという時の応援
3. 緊急時の連絡・対策・対応
緊急時に備えて連絡先や連絡手段の確認を行うこと、定期的な避難訓練を実施すること、事故後の報告などについて予め準備することが必要な内容について理解する。
 - (1) 連絡網の準備
 - (2) 避難訓練の実施
 - (3) 災害時・事件への対策・対応
 - 1) 保育室内での事故 2) 散歩中の交通事故 3) 不審者侵入 4) 保育中の地震 5) 保育中の火事
 - (4) 事故後の報告
4. リスクマネジメントと賠償責任
万一、事故が起こった場合の適切な対応と賠償責任保険への加入など、リスクマネジメントの必要性について理解する。
 - (1) リスクマネジメントとは
 - (2) 保育中の事故と法的責任

<研修に当たっての考え方>

保育環境上起こりうる事故の予防策や安全確保における留意点について理解するため、事故防止のための点検事項の確認、緊急時の対応のために予め準備することが必要な事項、事故に対するリスクマネジメントの必要性について学ぶものとする。

地域保育コース<共通科目>シラバス

【研修の構造：地域保育の実際を理解するための科目】

<科目>

⑨ 保育者の職業倫理と配慮事項（講義・演習・90分）

<目的>

1. 保育者としての職業倫理について理解する。
2. 保育者の自己管理について理解する。
3. 地域住民との関係づくりについて理解する。（家庭的保育における家庭的保育者の家族との関係にも留意する。）
4. 保育所や様々な保育関係者との関係づくり、行政との関係などについて理解する。
5. 児童虐待が疑われた場合の保育者としての対応について理解する。

<内容>

1. 保育者の職業倫理
「全国保育士会倫理綱領」を参考にしながら、保育者としての職業倫理について理解する。
2. 保育者の自己管理
質の高い保育を行うために、生活のリズムを整え、食事・睡眠・運動・ストレスマネジメントなど健康管理を心がけること、研修会への参加などを通して人間性や保育の質の向上を図ることの必要性について理解する。
(1) 健康面について
(2) 研鑽面について
3. 地域等との関係
地域住民の理解と協力の必要性と、地域住民との関係づくりについて理解する。また、家庭的保育における家庭的保育者の家族との協力関係について理解する。
4. 保育所や様々な保育関係者との関係
保育所等の連携施設と連携することの意義、他の保育関係者との交流の必要性について理解する。
(1) 連携施設との関係
(2) 様々な保育関係者との関係
5. 行政との関係
行政との協力関係の構築の必要性について理解する。
6. 地域型保育の保育者の役割の検討（演習）
地域型保育に従事する保育者はどのような役割を果たすべきか、KJ法を用いて、グループで定義づくりをする。

<研修に当たっての考え方>

保育者として必要となる基本姿勢や果たすべき役割について理解するため、保育者としての職業倫理、自己管理の必要性、地域や周辺の保育所等との関係、行政との協力関係の必要性について学ぶものとする。

地域保育コース<共通科目>シラバス

【研修の構造：地域保育の実際を理解するための科目】

<科目>

⑩ 特別に配慮を要する子どもへの対応（0～2歳児）（講義・90分）

<目的>

1. 0～2歳の気になる行動をどのように考え、どう関わっていけばよいかを行動特徴の把握などを通して理解する。
2. 特別に配慮を要する子どもへの対応における保育者の役割について理解する。
※ 発達の遅れが疑われる場合、保護者の思いを踏まえた上での対応の必要性について理解する。（専門機関との連携を含む。）
3. 遊びを通して、子どもの発達を促す方法について理解する。

<内容>

1. 気になる行動
保育者が気になる「子どもの行動」とはどのようなものか、思い起こす。
2. 気になる行動をする子どもの行動特徴
特別に配慮を要する子どもの気になる行動の特徴、子どもが気持ちを訴える際の具体的な表現の仕方について理解する。
(1) 行動特徴
(2) 子どもの心の訴え方
3. 気になる行動への対応の考え方
保育者が気になる行動に対して行う対応によって、子どもの発達に影響することについて理解する。
4. 気になる行動の原因とその対応
気になる行動には様々な原因が考えられることについて理解し、適切な対応について理解する。
(1) 原因
(2) 障害とその対応
(3) 環境要因とその対応
5. 保育者の役割
子どもの気になる行動に対して、保育者がとるべき行動、モデルとしての役割について理解する。
(1) 発達課題達成のための援助者
(2) 行動モデルとしての保育者…親子にかかわる大人として
(3) 楽しさを共有する保育者
6. 遊びを通して、子どもの発達を促す方法
日本に伝承されてきたあやし方や遊びなどによるコミュニケーションを学び、子どもを楽しませながら心身を育てる効果があることについて理解する。

<研修に当たっての考え方>

0～2歳児の気になる行動どのように受け止め、どう関わっていけばよいかを理解するため、特に配慮を要する子どもの行動の事例、特徴、気になる行動への対応の方法、保育者としての役割について学ぶものとする。

地域保育コース<共通科目>シラバス

【研修の構造：研修を進める上で必要な科目】

<科目>

① グループ討議（演習・90分）

<目的>

1. 研修参加者が討議のテーマにそって話し合うための方法やマナーについて理解する。
2. テーマについて、自分の意見を述べたり、他の参加者の意見を聞く相互作用を通して、考えをまとめ、問題点を整理し、解決方法を検討する。
3. 今後学びたい内容あるいは助言者に質問したいことなどを、グループ内で話し合う。
4. 研修で学んだこと等についてグループ討議を行い、理解を深める。

<内容>

1. 討議の目的
グループ討議により、地域型保育コースで行う保育への理解を深め、不安や問題点について話し合い、その解決策を見いだすというグループ討議の目的を理解する。
2. 討議の原則
グループ討議を行う際には、マナーを守って行う必要があることについて理解する。
3. 討議の効果
グループ討議により問題整理や情報収集・提供などの効果があることについて理解する。
4. 討議のすすめ方
グループ討議の進め方（流れ）とマナーについて理解する。
 - (1) 自己紹介
 - (2) 司会係と記録係、全体討議での発表係を選ぶ
 - (3) 個人の考えの明確化
 - (4) 個人カードの発表
 - (5) 問題点のグルーピング
 - (6) 討議課題の決定
 - (7) 解決策の討議
 - (8) 記録
 - (9) まとめ
 - (10) 全体討議での発表
5. グループ討議（演習）
実際にグループ討議を行い、グループ討議の進め方、効果について講義で学んだ内容についての理解を深める。

<研修に当たっての考え方>

グループ討議の方法を学び、実際にグループ討議を行うことにより、講義や演習により学んだ内容について、理解を深める機会とする。

地域保育コース<共通科目>シラバス

【研修の構造：自治体の制度や地域の保育事情等を理解するための科目】

<科目>

⑫ 実施自治体の制度について（任意）（講義・60～90分）

<目的>

- 実施自治体の保育関係施策や関係機関について理解する。
- ※ 一時預かり事業を含めた地域子ども・子育て支援事業について理解する。

<内容>

1. 関係機関
 2. 地域資源
- ※ 研修が実施される地域にある関係機関や保育資源について説明し、研修終了後の従事先についてイメージを持ちながら研修を受講できるようにする。
 - ※ 一時預かり事業を含めた地域資源についても情報提供する。

<研修に当たっての考え方>

地域の保育資源を学び、この研修を受講することにより、どのような保育現場に従事できるかを理解できるようにする。また、一時預かり事業については、地域型保育の分類の研修を受講することによって従事可能となるが、実際に一時預かり事業に従事する際には、一時預かり事業の分類の研修を受講することが適当であることを理解する。

- ※ この科目を行うときは、基本的には自治体の方が講師となる。